

第6回全国国立大学病院集中治療部協議会

## 第6回全国国立大学病院集中治療部協議会日程

1. 期 日 平成3年3月5日(火)
2. 会 場 東京医科歯科大学歯学部大会議室  
(歯学部外来事務棟2階)  
東京都文京区湯島1-5-45  
TEL(03)3813-6111 (内)5500

### 3. 日 程

#### (1) 会 議

受付開始	13:30
開 会	14:00
当番校病院長挨拶	
文部省挨拶	高等教育局医学教育課 大学病院指導室長 鳴野 英彦
議 事	
閉 会	16:00

### 4. 議 題

- (1) 国立大学集中治療部のあり方  
①国立大学集中治療部のあり方について(香川医科大学)  
②国立大学集中治療部あり方検討会(仮名)の設立(大阪大学)
- (2) 国立大学集中治療部実務者委員会(仮称)の設置について  
(名古屋大学)
- (3) 集中治療部の新設について(香川医科大学, 島根医科大学)
- (4) 集中治療部の人員増(定員増)について  
①臨床工学技士(群馬大学, 佐賀医科大学)  
②看護婦(新潟大学)  
③その他(長崎大学)
- (5) 近代化予算の要求(長崎大学)
- (6) 全国国立大学病院長会議への上程議題について
- (7) その他

第6回全国国立大学病院集中治療部協議会出席者名簿

大学名	官職	出席者氏名	大学名	官職	出席者氏名
弘前大学	副部長	坪 敏仁	京都大学	副部長	玉井 直
秋田大学	部長	鈴樹正大	大阪大学	部長	吉矢生人
東北大学	部長	橋本保彦		副部長	妙中信之
	副部長	松川 周	岡山大学	副部長	小林 尚日出
山形大学	部長	一柳邦男	広島大学	副部長	大谷美奈子
群馬大学	副部長	国元文生	山口大学	副部長	定光大海
筑波大学	部長	能勢忠男	香川医科大学	部長	小栗顯二
千葉大学	部長	平澤博之	九州大学	部長	吉武潤一
東京大学	部長	中條俊夫	長崎大学	副部長	長谷場 純敬
新潟大学	部長	下地恒毅	佐賀医科大学	部長	十時忠秀
	講師	佐藤一範	熊本大学	部長	岡元和文
金沢大学	講師	石瀬 淳	鹿児島大学	部長	吉村 望
信州大学	助手	深谷幸雄	琉球大学	副部長	伊波 寛
名古屋大学	部長	島田康弘	浜松医科大学	部長	池田和之
	副部長	竹澤 純	島根医科大学	部長	小坂義弘
			高知医科大学	副部長	榎花寿人 立
当番大学					
東京医科歯科大学	部長	天羽敬祐			
	副部長	角田幸雄			

第6回全国国立大学病院集中治療部協議会

大学名 香川医科大学

1. 提案議題および理由

議 題： 国立大学集中治療部のあり方の検討

理 由： 前回の会議で集中治療部が麻酔科から独立した診療部門であるべき考えが提示されたが、一方で、救急部と協同することによって高次医療を行っている施設も多い。多角的な視点から検討する場を早急につくるべきだ。

## 第6回全国国立大学病院集中治療部協議会

大学名 大阪大学

### 1. 提案議題および理由

議 題：国立大学病院集中治療部あり方検討会（仮名）の設立

理 由：集中治療部が誕生して20年近くが経過する。この間、集中治療を志す医師の数は増加し、日本集中治療医学会が誕生し集中治療学は着実に進歩してきた。しかし一方では、集中治療学がかかえる問題点も次第に明かになってきたように思われる。たとえば一例として、「現在集中治療部の責任者たちの年齢は40～50才にさしかかっているが、この人たちの将来はどうなるのか」という問題があげられる。これは、集中治療部の今後のあり方と大きくかかわった問題である。また、地域基幹病院における集中治療専門医師や集中治療施設の養成と充実なども、集中治療学の今後の発展にとって大きな問題点であると考えられる。

こうしたさまざまな問題を取り上げ、解決するひとつの糸口とするために、国立大学病院集中治療部協議会の下で委員会として「あり方検討会」を設立することにより、集中治療部がかかえる諸問題について現場サイドから検討していく場を作っていただきたい。

## 第6回全国国立大学病院集中治療部協議会

大学名 名古屋大学

### 1. 提案議題および理由

**議題：全国国立大学集中治療部実務者委員会（仮称）の設置について**

理由：全国の国立大学集中治療部の診療形態、運営内容は様々であり、各大学の特殊事情も相まって各大学間の横の連携はきわめて薄いと言わざるをえません。

従って、集中治療部の医療従事者は殆ど孤軍奮闘で日常の診療に追われているのが現状と思われます。そこで、全国国立大学集中治療部協議会の下部機関として各大学集中治療部副部長を中心とした実務者委員会（仮称）を設置して各大学集中治療部の現状と問題点の認識を手始めに行いたいと思います。

今後は、集中治療部が現在かかえる緊急課題、即ち集中治療医学の確立、医師、看護婦の定員増、救急部との関係、高度先進医療、高額医療への対応等に関して、現場の実務者を中心に幅広く意見交換を行い、集中治療医学の将来を展望する場にも発展できたらと思います。

以上の趣旨でこの委員会の設置を希望致します。

第6回全国国立大学病院集中治療部協議会

大学名 香川医科大学

1. 提案議題および理由

議 題： 訓令化の促進

理 由： 集中治療部新設（訓令化）は香川医科大学の概算要求項目に入っているが

第6回全国国立大学病院集中治療部協議会

大学名 島根医科大学

1. 提案議題および理由

議 題：集中治療部の新設について
理 由：当日口頭説明

第6回全国国立大学病院集中治療部協議会

大学名 群馬大学

1. 提案議題および理由

議 題： 臨床工学技士の定員化について

理 由： 人工呼吸器，I A B P，血液浄化装置などの生命維持管理装置を扱う集中治療部は臨床工学技士を必要とし，また，最も適した職場と考える。  
職種としてとりあげ，定員化を進めていただきたい。

第6回全国国立大学病院集中治療部協議会

大学名 佐賀医科大学

1. 提案議題および理由

議 題： 臨床工学技士の配置について

理 由： ICUでは、呼吸器の整備点検や人工透析のために上記職  
種のもものが是非必要と考える。  
については、この職種の配置について御協議願いたい。

第6回全国国立大学病院集中治療部協議会

大学名 新潟大学

1. 提案議題および理由

議 題： ICU看護婦の増員

理 由： ICUの活動を制限している大きな要員の一つに看護婦の不足がある。

第6回全国国立大学病院集中治療部協議会

大学名 長崎大学

1. 提案議題および理由

議 題：人的構成の整備と近代化予算の要求

理 由：大学病院は高次機能病院（21世紀を目指した医療供給のあり方）であるべきで、当然、集中治療部は必須条件になる。この集中治療部の機能を十分に発揮させるためには、まず、看護婦の増員、臨床工学技士の配置が必要であり、且つ、卒後教育体制のための第一段階として講師の助教授振替が必要である。次に医療機器の老朽化、或は、新しい機器の不足で集中治療のレベル低下の危惧が生じてきているので、予算措置が必要である。